

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1. 概 況

県内の景気は、悪化している。

最終需要の動向をみると、公共投資は前年を上回ったものの、住宅投資が前年を下回ったほか、個人消費も弱くなっている。この間、設備投資は、計画を大幅に下方修正する動きが広がっており、投資スタンスも慎重化している。

こうした中、生産は、減産を強化する動きが広がっており、雇用情勢は厳しさを増している。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、所得環境の悪化や雇用調整が進む中で、弱くなっている。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上高をみると、主力の衣料品が低調なうえ、身の回り品や雑貨も落ち込んでおり、前年を下回って推移している。

スーパーでは、節約志向の高まりによる内食回帰の動きなどから、食料品は前年並みの水準で推移しているが、衣料品や雑貨などが不振なことから、全体では前年をやや下回る動きとなっている。

(家電量販店売上高)

家電販売では、炊飯ジャーや電子レンジなどの内食関連商品に動きがみられるものの、薄型テレビが前年並みとなっているほか、洗濯機、エアコンなどの白物家電が弱めの動きとなっているため、前年をやや下回る動きとなっている。

(新車登録台数)

1月の新車登録台数は、軽自動車は前年並みとなったものの、乗用車、貨物車ともに前年を大きく割り込んだことから、全体でも前年を1割強下回った。

(2) 公共投資

1月の公共工事請負金額は、2ヶ月連続して前年を上回った。

(3) 住宅投資

12月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家が低調なことから、2ヶ月連続して前年を下回った。

(4) 設備投資

2008年度の設備投資計画(12月短観調査結果*)をみると、受注の減少や収益の悪化を背景に、製造業を中心に投資の絞込みや先送りの動きが広がっており、前年度を大きく下回っている。

*08/下期計画・前年同期比：製造業▲67.6%<前回調査比修正率▲47.7%>、非製造業▲38.1%<同▲15.6%>、全産業▲65.4%<同▲45.0%>

3. 生産動向

生産は、減産を強化する動きが広がっている。

(電子部品類)

電子部品・デバイスでは、海外需要の急速な落ち込みや半導体市況の低迷長期化などを背景に、減産幅を拡大する動きが広がっている。

(輸送機械)

世界的な自動車販売の落ち込みを背景に受注が急速に減少しており、完成車、自動車部品とも、操業度を引き下げている。

(一般機械)

半導体製造装置では、受注低迷から減産体制を継続している。一方、建設機械部品では、新興国向けの需要減少から、操業度を引き下げているほか、工作機械も国内の設備投資の落ち込みに加え、新興国からの需要も減少しているため、減産を強化している。

(その他)

世界的な需要の減少を背景に、鉄鋼の線材は、操業度を急速に引き下げている。一方、窯業・土石、木材・木製品は、公共工事や民間工事の減少による在庫の積み上がりから減産を強化している。この間、食料品は、ほぼ横這いで推移している。

4．雇用・所得の動向

雇用情勢をみると、製造業を中心に人員調整の動きが広がっており、厳しさを増している。

12月の有効求人倍率（季節調整値）は0.44倍（前月：0.48倍）と8ヶ月連続、新規求人倍率（同上）も0.64倍（前月：0.76倍）と5ヶ月連続して低下した。

この間、雇用者所得は、所定外給与が大幅に減少していることなどから、前年比減少幅を拡大している。

5．企業倒産

1月の企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数が8件（前年同月10件）、負債総額が14億22百万円（同18億24百万円）と、件数、負債総額とも前年を2割方下回った。

6．金融面の動向

預金動向をみると、個人預金が堅調なうえ、貸出の増加に伴う法人預金の増加もあって、前年を上回って推移している。

一方、貸出動向は、住宅ローンが頭打ちとなっているものの、地方公共団体向けが増加しているほか、法人向けも運転資金需要が増加していることから、前年を上回って推移している。この間、貸出金利は、低下している。

以 上

本件に関する問い合わせ先 日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） http://www3.boj.or.jp/morioka/
